

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600200		
法人名	有限会社 コトブキ		
事業所名	江北紀水苑		
所在地	杵島郡江北町大字上小田1261		
自己評価作成日	平成27年12月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年1月19日	外部評価確定日	平成28年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員同士が情報の共有化に努め、連携して支援を行うことで、利用者及びご家族が安心して、心地よく過ごして頂けるような環境作りを心がけている。利用者の思いに寄り添い、生きがいを感じながら、本人のペースで生活できるような空間を提供できるよう、支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道34号線傍の高台の住宅地に位置しており、近くには、協力医療機関や高校、名所旧跡等が点在している。居間兼食堂からは、日の出や木々・田畑の四季の変化及び江北町の街並みが一望できる。開設後12年余を経過した事業所は、当初からの職員や5年前後の経験を持つ職員が大半で、安心感のある家庭的な雰囲気が漂っている。職員間の意思の疎通も良く、お互いに思いやりの心を持って利用者の支援に当たっている。「楽しく、明るく、心地よく」を理念に掲げ、利用者が地域の中で、一人ひとりの持てる力を発揮し、一瞬一瞬を楽しく心地よく過ごしてもらえる支援に取り組んでいる。食事の支援では、利用者と一緒に食材の下拵えや配膳、下膳、食器洗い等を一緒に行い、作業が終わるとお互いに労いの言葉かけもなされている。楽しみのひと時であるレクリエーションでは、一層楽しいひと時を過ごしてもらえるように毎月1回専門の講師も招いている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に『楽しく、明るく、心地よく』の理念を掲げ、家庭的な雰囲気と、地域交流の下、利用者が自分らしい生活を継続できるよう支援している。問題に直面したときには、スタッフ間で意見を出し合い、理念に基づき支援している。	「楽しく、明るく、心地よく」を理念とし、利用者が地域の中で、その人らしく心地よい日々が送れるように支援している。職員の採用時には、管理者が理念を説明し、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの慰問や、お祭りの際には浮立など気軽に訪問していただき、文化祭や運動会のお誘い等を受けたりと、積極的に地域の行事に参加している。また、地域の方からのお花やお野菜を頂くなど、良好な近隣関係を築いている。	地域との繋がりの重要性を認識しており、自治会にも加入し、地域行事には利用者と一緒に参加している。近隣住民とは利用者共々顔馴染みで、花や野菜等をいただくこともある。また、地域の演芸ボランティアや町内にある高校の職場体験学習等も受け入れて交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域包括ケア会議の中で、施設でのケアの経験を元に、認知症の方の理解や支援方法について、意見交換を行っている。また、そこを通して、演奏会や読み聞かせ等のボランティアの受け入れなど、新たな発展へと繋がっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催している運営推進会議では、地域住民、地域包括センター、利用者家族側からの意見を率直に出し合い、より良いサービスの提供に繋がるように努めている。	2ヶ月に1回、区長、民生委員、家族、行政職員等の参加を得て開催されており、事業所の状況や行事の報告、認知症の症状や支援に関すること等を議題として話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター主催で開かれる『地域包括ケア会議』に出席し、町内の他施設の職員の方と意見、情報の交換を行い、講師より指導を受けている。また書く施設が持ち回りで事例を取り上げ、検討することで問題解決への具体的な方法を参考にしている。他施設との協力関係の構築へと繋がっている。	管理者は地域包括ケア会議、運営推進会議及び認定更新時等に町の担当者に事業所の状況等を伝える等情報交換をし、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーを設置し、帰宅願望の強い方には制止するのではなく、見守りながら、その思いに寄り添うように対応している。全職員が理解を深め、統一したケアを提供できるよう努めている。	今年度の事業所の目標にも掲げており、職員は身体拘束の禁止となる具体的な行為を理解している。昼間、玄関は施錠しておらず、利用者の外出気配時には制止することなく付き添って見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	玄関にはセンサーを設置し、帰宅願望の強い方には制止するのではなく、見守りながら、その思いに寄り添うように対応している。全職員が理解を深め、統一したケアを提供できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は積極的に講習に参加し、理解を深めるよう努めている。また、定期的に関われるグループ本部での勉強会にも参加するなどして、問題に直面した時に対応できるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、苑の支援方針や入居後の生活について、理解・納得していただいた上で、契約を結ぶようにしている。同じく退去時も説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑行事の際には、必ず参加家族全員で話し合う機会を設け、利用者家族各々が意見を出し合っている。面会やケアプランの更新時には家族からの意見や要望を個別に聞き取りを行っている。また、運営推進会議へも参加して頂き、利用者家族の意見として、より良い運営に反映させている。	面会時や介護計画の見直し時及び運営推進会議、家族交流会の時等に声を掛け、意見や要望等を聞くように努めている。要望等が出された時には関係者で話し合い、サービスに反映している。玄関には意見箱も置かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議や個別面談を行い、職員の意見や提案を反映させるようにしている。また、毎朝の申し送りを利用し、随時、意見や考えを出しやすい環境を整えている。	代表者や管理者は毎月の職員会議や個別の面談等で職員の意見や要望等を聞き、可能な範囲で運営に反映している。職員は気兼ねなく意見や要望等を表している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員の勤務状況を把握した上で、研修参加や資格取得、実績、日ごろの勤務態度を評価しながら、給与、賞与に反映させている。また職場環境・条件においても、定期的に面談を行うなどして確認し、全体のバランスを考えた上で働きやすい環境の提供に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に参加しやすいように勤務の一環として研修に参加できるよう配慮している。公的に開催される研修のほか、グループ本部主催の勉強会では、職員のレベルに合った研修への参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームおの交流研修会を行っており、研修後は他のグループホームの職員と発表会を行っている。交流研修で気づいた点や改善点を明確にし、サービスの質の向上につなげている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に入院先・自宅等へ伺い、本人と会って、直接不安や要望を聴き、安心・納得した上で入所していただく様になっている。入所されてからしばらくは、特に密に接するようにし、状態把握に努めている。それらの情報を基に基本情報を作成し、職員間で周知徹底し、安心・信頼できる関係・環境作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族、管理者、ケアマネージャーとで話し合う機会を作り、家族の要望、不安等を聴き、施設の理念、方針を説明し、安心、信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所以前の情報を収集し、その人の状態と性格、家族との関わり方を把握した上で、その時に必要としているケアを提供できるかを見極める。グループホームだけに絞らず、その方にとって、最も望ましいサービスを共に考え、協力するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体の不自由な方には料理の調理方法や味付けを聴いたり、元気な方には洗濯や買い物などを共に行い、家事全般を通して何らかの形で係わって頂くようにしている。昔の暮らしぶりや習わしを教わるなど、相手を尊重する気持ちを持って接し、お互い支え合い、信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月入所者様の状態や行事の報告をお手紙や『円便り(新聞)』にて伝えている。急な状態お変化があった時は、その都度、電話連絡を行い、ご家族と共に支えていく関係づくりを心がけている。病院受診や、理美容については家族との交流の場として捉え、負担にならない程度、家族の出番を作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないように、場所を当苑に変えて、面会という形で継続して頂くようにしている。また、買い物や散歩やドライブなど、利用者が過ごしてきた地域への外出を行うなど、かつての知り合いに出会う機会を作っている。	職員は利用者の馴染みの人や場所等を把握しており、知人の訪問時にはお茶を供してゆっくりと過ごしてもらえるように配慮している。また、ドライブや買物では利用者の家の近所や馴染みの店等に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全体で利用者同士の関係把握に努め、毎日のレクリエーションや食事などを通し、利用者同士の相性を考えた上で座る位置などを配慮しながら、交流を支援し、お互い支えあえるような関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、何かの折には、自宅を訪問し、相談を頂くようお伝えしている。また、みかんの収穫時期になると、毎年、みかんを苑に持ってきていただくなど、退所後も良好な関係性を継続できている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランの更新時には、本人・家族の希望を確認し、入所者にとって良いと思われる支援方法を検討している。入所者別に担当職員を設け、個別的に観察し、把握するよう努めている。また、視点が偏ってしまわないように、担当者を変えるようにしている。	夜間など一人ひとりとゆっくりと接することができる時の会話の中から思いや希望等を把握している。意志の疎通が困難な場合には、生活歴や家族の話、表情等から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に、家族や本人から生活歴や、生活環境、生活パターン、サービス利用の経過など、基本情報を収集している。入所後の生活において、環境の変化におけるストレスが出来るだけ少なく済むようなケアの提供を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で連携を図り、入所者の状態について情報を共有し、個別的なケアを行う。また、申し送りや経過記録などから、職員一人ひとりが意識的に利用者の情報を収集する姿勢で取り組むよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者一人ひとりに担当職員を設け、ケアマネージャーは担当者を含め、カンファレンスを行い、アセスメントし、介護計画書を作成している。支援方法について家族や利用者の要望を伺い、計画に取り入れるようにしている。	本人、家族、職員等で話し合い、意向や課題に添った本人本位の介護計画を作成し、定期的な評価と見直しを行い、現状に添った計画で支援している。状態に変化が生じた時には、臨機応変に見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとの経過記録には、体調や精神状態の変化、出来事について、細かく記録に残している。また『入所者専用』『全体』の2冊の申し送りノートを活用し、ケアの実践・結果・気づきや工夫について職員間で情報の共有に努め、介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の協力体制に応じて、24時間対応の往診専門の医療機関に移行し、それぞれのレベルやニーズに合った柔軟な支援体制の確立に努めている。その他、行政手続きや病院受診、衣服やオムツ等の調達にも出来る限り協力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で届けられる毎月の配布物で、地域行事、活動について情報を確認し、積極的に参加するようにしている。また、町内の音楽や舞踊、紙芝居等のボランティアの訪問があり、協力が得られている。日々の生活の中でも買い物に出かけたり、楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望されるかかりつけ医と連携して、日常の健康管理ができるよう支援している。定期受診(往診)時や、体調不良時には健康状態を報告・相談し、医師より指導を受けている。	本人や家族の希望される医療機関の受診がなされており、職員は適切な受診ができるように医療機関との連携を図っている。通院は基本的に家族の同行としているが、緊急時等は職員が同行している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝・夕の申し送り時に状態を報告し、また申し送りノートを活用し、職員全体での情報の共有化に努めている。入所者様の心身状態を把握し、異変があれば看護職員に相談し、適切な指示を受け、医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護情報提供書を作成し提供している。入院中も随時病院と連絡を取り、病気の回復状況や入院先での様子など、情報収集に努めている。退院時には医師からの病状説明を受け、サマリーを頂き、退院後も継続して医療と連携して支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護指針に基づき、入居契約時には家族に説明を行っている。健康状態に変化があれば、家族と話し合う機会を設け、重度化した場合や、終末期のあり方について家族の希望を、段階的に確認するようにしている。運営推進会議で地域の方に協力を得るなど、チームでの支援に取り組んでいる。	重度化及び看取りの介護に関する指針を契約時に説明している。重度化や終末期の対応を要する場合には、再度、事業所で対応し得る支援の内容を説明し段階ごとに家族の意思確認を行い、医療機関等とも連携し家族の意思に添える支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時における対応についてマニュアルを整備している。また、定期的に勉強会を行い、実際に発生した場合に対応できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害に対しての緊急対応マニュアル、緊急連絡網を整備している。火災訓練は夜間想定での通報・避難・誘導訓練を年に2回、利用者と共にやっている。また、自動火災報知設備、火災通報装置、スプリンクラー、消火器等の点検も同時に行っている。	年に2回、防火設備会社の参加協力を得て、夜間の火災発生を想定した通報・避難誘導等の訓練を実施している。訓練には近隣住民の参加が得られることもある。また、近所の3軒の家に非常通報装置を設置させてもらっている。	更なる災害対策として、昼間を想定した訓練の実施と夜間専属勤務者の訓練への参加が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについて規定し、周知徹底している。本人が自分の思いで選択できるような言葉かけがけている。一人ひとりの人間性を尊重し、プライバシーを損ねないよう、また傷つけないような気配りと対応を徹底している。	接遇の研修も行われており、利用者を尊重した、優しい笑顔で言葉かけや対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の中でリラックスし、できる限り満足して暮らせるように、本人の思いや希望を大切にしている。利用者一人ひとりに寄り添うケアを心がけ、同じ目線で自分の思いを打ち明けやすい雰囲気、環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れが決まっているが、柔軟に変更できる体制となっている。レクリエーションの参加や入浴も強制する事なく、利用者の意志を尊重している。出来る限り入所者の生活のリズムやその日の体調、気分に合わせて、本人の意向を尊重し、無理なく過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは本人の好みで決めて頂き、気候に合った服装であるかどうかの見守りを行っている。理美容については、本人あるいはご家族の希望により、馴染みの店に行けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや味見、配膳や後片付け、食器洗い等、できることを職員と一緒にやっている。また、畑で採れた野菜で何を作るかなど、利用者と職員がともに考えを出し合っている。あくまで家事が得意な方、もしくは意欲的な方の本人の意志を尊重し、強制することはない。	利用者個々の力を活かしながら一緒に食材の下拵えや配膳、下膳、食器洗い、片づけ等を行っている。食事の時は、職員は介助と見守りをしている。事業所本部の栄養士による献立の栄養バランスチェックが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、成分表を使用し献立を作っている。食事摂取量は必ずチェックし、水分摂取量も24時間を通してチェック表にて管理している。ご家族との外出中に食べられた量や間食についても、報告してもらえるようにし、状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの身体レベルに応じて、口腔ケアを行っている。状態に応じて、訪問歯科治療を受け、口腔内を清潔に保てるように努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄管理表にて排泄パターンを把握し、個人レベルに合わせ、自立に向けた支援を行っている。尿意、便意のないオムツ使用の方においても、尿間隔やしぐさなどから判断して誘導し、できるだけトイレで排泄して頂くよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンや習慣等を活用しながら声掛けをし、トイレでの排泄を支援している。意思の疎通の困難な利用者は排泄間隔を見極めておむつ交換をしており、交換時には洗浄を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	持病等を考えた上で、個人ごとに一日の水分摂取量を設定して、チェック表で水分摂取量を把握している。便秘に効果的な水素水の浄水器を設置しており、繊維質の多い食物を摂取するなど心がけている。体操や歩行運動、腹部マッサージ等を取り入れ、できるだけ体を動かすよう支援している。また、定期的に勉強会でテーマに取り上げ、学んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則として1日おきに入浴を行っているが、毎日入浴の準備をしているので、希望によっては毎日でも入浴できる。寒い日や、拒否のある方には、足浴で温めることもある。利用者の気分やタイミングを伺いながら、気持ちよく入浴して頂くように支援している。	基本的に1日置きの入浴としているが、希望時には毎日の入浴も可能である。入浴を拒否される時は、無理強いせず、声掛けやタイミングを工夫して支援している。車椅子利用の利用者は浴室を温め、足浴をしながらシャワー浴を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所時に、それまでの生活パターンを聴取し、昼夜逆転など大きく乱れのある方には、徐々に生活のリズムを整えて、安眠、休息が十分確保でき、心地よく生活できるように支援している。原則として、起床・消灯時間も特に決めておらず、昼寝する・しないも本人の意志に任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録、申し送りノートに記録し、全職員が把握するよう努めている。日頃の行動、排便状況、血圧等を観察、記録し、担当医師に薬の調節をして頂いている。臨時薬の処方時も、一目でわかるように、熱表に記入し、内服一覧表も整備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、後片付け、掃除、洗濯などは、その人の状態に応じて、役割分担して行っている。買い物へも共に出かけ、気分転換を図っている。与えられた作業について、皆さん意欲的に取り組まれているのを感じる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買物に出かけたり、天気のよい日は町内の公園まで、ドライブしたり、近所を散歩したり、苑庭で日向ぼっこしたりしている。また、食材や日用品の買い物に入居者様と職員と共に出かけ、一緒に選んだりしている。	天気のよい日には散歩や日向ぼっこをしたり、食材等の買い物やドライブに出かけている。個別の外出は家族の協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルの原因となることもあるので、原則として、現金の所持を控えていただいている。しかし、現金を持つことで安心される方や家族が持たせたいという希望があれば、小額の現金を所持して頂いている。買物については、共に出かけ、本人の好みで選んで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がご家族と話したいという要求があった場合は、時間帯を考慮してかけていただいている。ご家族から届いた年賀状やお手紙は、本人に渡し、部屋に飾るなどして喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設が高台に位置し、ホールの窓からは山や田畑、町が一望でき、十分に季節を感じる事ができる。季節に応じて、玄関やホールの装飾を変えたり、季節を感じる事が出来るように工夫している。夏の間、日当たりが良すぎる部屋にはすだれやよしずを掛けるなどして、日光調節を行っている。	玄関や居間兼食堂は家庭的な調度品や季節感のある飾りを配し落ち着いた雰囲気である。日当たりのよい居間の窓にはブラインドを設置し、日射しの調節を行っている。トイレは匂いもなく壁には花等の写真が貼られている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブル、ソファをいくつかに分けて配置し、気に入った場所で各々過ごされたり、気の合う利用者同士おしゃべりをされたり、思い思いに過ごしてもらえるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや嗜好品の持ち込みを奨励しており、写真立てやカレンダー、仏壇などで、居室を思い思いに装飾して頂き、本人にとって居心地の良いスペースとなるよう工夫している。	利用者の馴染みの品の持ち込を勧め、安心して居心地の良い居室作りを支援している。鏡台や仏壇、写真、カレンダー、時計、本、人形等が見受けられる。寒い季節の夜間は、雨戸を閉めて寒気を防ぎ、夏場には日の入る居室にはよしやすだれを使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりカレンダー、時計を設置し、日時、曜日の確認ができるようにしている。各居室の入口に表札と本人の写真を貼っている。トイレ、風呂場にも表札を付け、夜間体でもトイレの電気はつけるなど、随所に目印を設置し、混乱を防ぐような環境作りに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない